

京都大学OCW

—オープンエデュケーションがもたらすもの—

Kyoto University OpenCourseWare
-Open Education-

土佐尚子
Naoko TOSA

美濃導彦
Michihiko MINOH

1 きっかけ

2005年

OCWの創始者の一人であるMITの宮川教授が京大来訪



当時の京都大学総長へ、「OCW参加を誘われる」



OCW準備委員会が発足。各部局から一名ずつ委員の教員が集まり、様々な討議が行われる。



2 オープンエデュケーションの風土

OCWが定着するためには**オープンがなじむ風土**が大切

MITのOCWプロジェクト
(例えばGNU)の実績

=

京都大学
オープンソフトの草分けである
KCL開発

風土の共通性

日本で最もOCWが広まった理由のひとつ

2 オープンエデュケーションの意義

大学にとっての地域社会への還元、国際的に大学をアピール
OCWは、**大学教育の「現在」をストリーミングするメディア**



- ・教員にとっては、著作権を気にすることなく、新たな教材として、世界中のOCWを使うことができる。



知識や教育を共有し、社会的な教育コミュニティのネットワークが出来て、国際的に広まっていく。



人類の知的水準が上がっていくという、
ひとつの理想とするモデルがある。
本当にこの理想モデルに到達するのだろうか？

2 京大の教員にとってのOCW利用の動機

講義に使用する図版が多く、配付資料として使用する紙の量が無視できない。
 受講者の数が一定ではないため余分に用意しなくてはならず、コピー資料に無駄が出る。
 ネット上に資料を置いておいて、受講者が自分の分の資料をコピーすると無駄が出ない。

いっそのこと、図版だけではなく講義ノートそのものを置けば、**受講者にも教科書代わり**となる。(市販の教科書等をテキストとして使用していない)



2 講義ノートを提供の裏表(京大の教員の意見)

Pros:

- カラー図版を気兼ねなく使うことができる。
- 数式の書き間違いや、汚い字でも写し間違いがない。
- 時間が無くなっても「講義ノート〇〇頁を見てね」と言って飛ばすことができるので、余談が多くなり、知識だけでなく、周辺の話、考え方なども話す余裕ができる。

Cons:

- 講義ノートがあると学生が安心し、欠席する？
- 数式は、やっぱり板書のスピードでないと理解が追いつかないので、注意。(自戒)
- 講義ノートに書かれていること自体を講義時間に話す意欲が下がる:それでも良い？

2 京大OCWに多くの講義をアップさせる対策

MITが発案したOCWの定義 講義ノートPDF公開。
京大では授業講義ノートは著作権処理が問題で、なかなか集まらなかった。



京都大学OCWでは、講義を撮影。
ビデオ収録済み講義をOCWでストリーミングサービスを開始。



講義ビデオをOCWでストリーミングすることを望む教員が増加
京都大学OCWでの講義ビデオ数は、**700本**を超えている。
講義ビデオを公開してアピールしたいという願望が教員の中に内在している。



3.1 現状: 京都大学OCWのあゆみ

2005年

京都大学OCWを始める。JOCW創立に参加する。

2006年

京都大学でOCW国際会議を主催する。
世界中から350名の参加者が集まる。
京都大学で国内向けOCWシンポジウムを開催した。



2007年

OCW専用のオープンソースのコンテンツマネジメントシステムであるeduCommons運用を始める。
学内のみの京都大学OCW懇談会を開き、学内の教員にOCWの活用を広める。



3.1 現状: 京都大学OCWのあゆみ

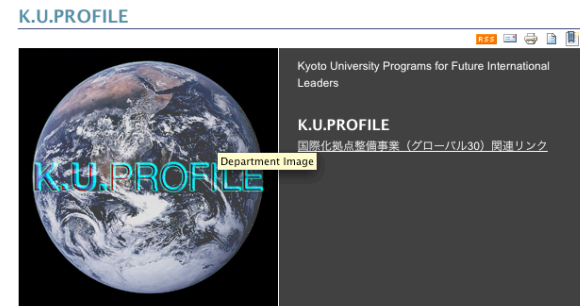
2008年

Google Japanと提携し、YouTubeで京都大学OCWチャンネルを開く。



2009年

京都大学留学センターと連携し、英語版OCWのトップページにKU@Profileを開設した。また学内の関連組織である図書館や、FD研究検討委員会、研究資源アーカイブと連携する。

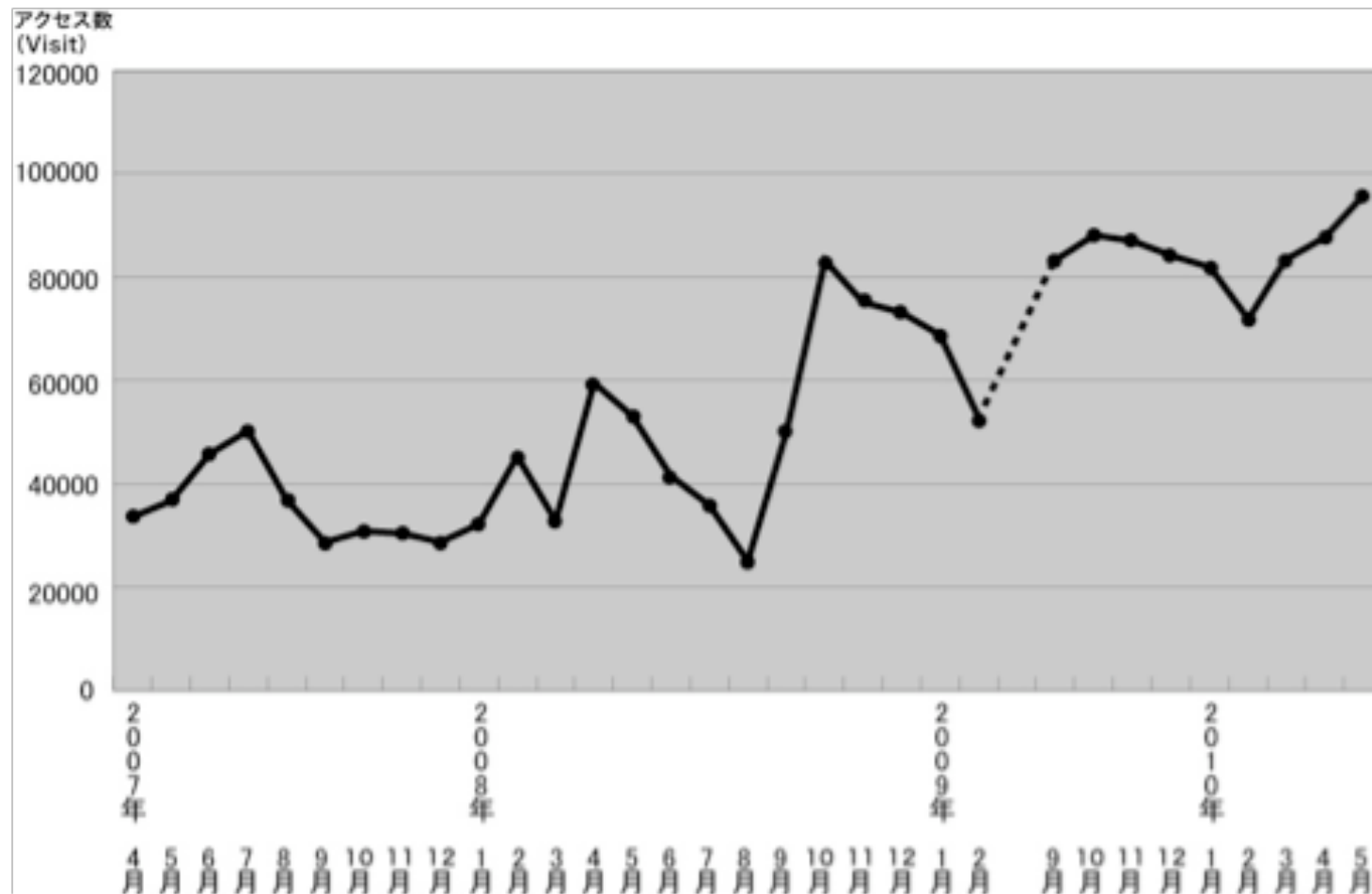


2010年

学内認証を使って教員自身がOCWをアップしたり、講義ノートを更新できるシステムに着手。(教員からの強い要望)

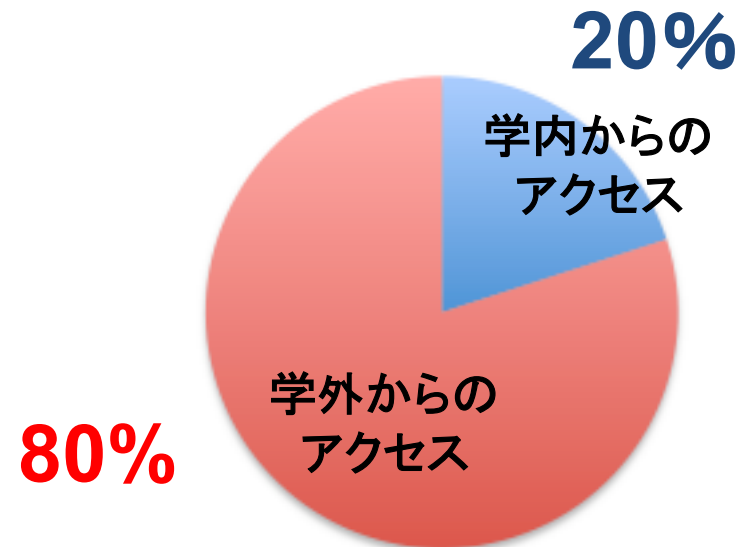
3.2 現状: 毎月約10万のアクセス数

京都大学OCWのアクセス数を以下の表に示す。アクセス数は、ユーザーが30分以上滞在したVisit数を使用している。現在の5月末の時点では、**9万6千アクセス**で過去最高である。



3.2 現状:毎月約10万のアクセス数

- ・講義動画件数が増えるに従って、アクセス数も比例して伸びている。
- ・アクセスユーザの内訳は、**20%**が学内からのアクセス、**80%**が**学外**からのアクセスである。このことからOCWの性格が、学外ユーザーへの対応であることがわかる。



京都大学OCWアクセスユーザー内訳

3.3 現状:OCWサイト作成システム

本学は、**eduCommons**というオープンソースコンテンツマネジメントシステムを採用している。

採用理由

- ・OCW公開専用のシステム
- ・国際的に45校以上の大学が採用しているか。
- ・今後、新たなソフトウェア開発や検索機能などで、国際的に連携をはかることが可能である。
- ・ソーシャルブックマークのdel.icio.usとの連携、気になる講義についてのWikiを作成する機能、OCW間にまたがる検索など、「Web2.0」機能が搭載されている。



4.1 課題: 英語での配信

英語での積極的な発信を進めて、いかに国際的に京都大学をアピールするか



KYOTO-U OPENCOURSEWARE
KYOTO UNIVERSITY

Welcome to KYOTO-U OpenCourseWare a free, open publication of KYOTO-U Course Materials. We invite you to view all the courses available at this time.

home courses about ocw help feedback welcome to kyoto-u ocw. Log in

Departments
Faculty of Integrated Human Studies
Faculty of Letters
Faculty of Education
Faculty of Law
Faculty of Economics
Faculty of Science
Faculty of Medicine

You are here: Home

[Welcome to Kyoto-U OCW.](#)

Multilingual translation

Welcome to KYOTO-U's OpenCourseWare:
The Three Principles of Kyoto University
Advance the scholarship of mankind and contribute to the

Message from President

OCW (OpenCourseWare) of Kyoto University

34 - Traditional Japanese Architecture and Gardens

RSS

Traditional Japanese Architecture and Gardens
Lecturer Arno SUZUKI

Course Structure: For all undergraduates and KUINEP students, 1 semester 1.5h/week

Highlights of this Course
The course offers an introduction to the history, design theory and construction methods of traditional Japanese architecture and gardens. We will explore the rationality and sustainability of traditional environment that can be applied for our current modern life and future.


Lecturenote

SES #	TOPICS	SLIDES
#1	Introduction to Kyoto: Natural and social background	pdf
#2	Prehistory, noble styles to samurai shoin style	pdf
#3	Zen and dry landscape gardens	pdf
#4	Teahouse and Gardens	pdf
#5	Large stroll Gardens	pdf
#6	Modern gardens	pdf
#7	Vernacular architecture of Japan	
#8	Structure, materials and environ	
#9	Review session	
#10	final examination and mini field	
#11	Student's presentation 1	

Origin of Japanese Gardens 1

- 聖域 - Sacred Precinct

Ancient Japanese worshipped nature; e.g. mountain, water, tree, rock...etc.




Natural Feature be there!

Hiyoshi Shrine, Okayama to protect a village

Kifune Shrine, Kyoto, for the sacred water

神道 Shinto

Design Major Students'



日本の伝統建築と庭園 Traditional Japanese Architecture and Gardens Arno Suzuki, Kyoto University

4.2 課題: サステナビリティ

連携

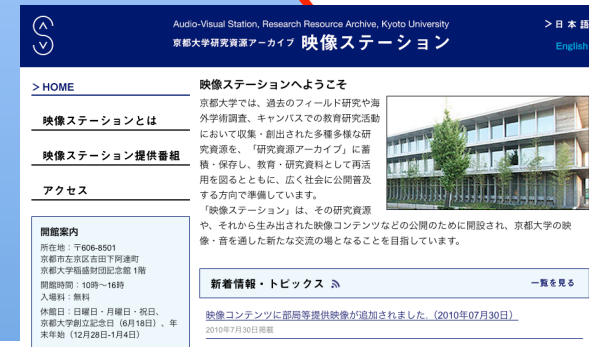


京都大学
FD研究検討委員会
Faculty Development Committee
Kyoto University

- FD研究検討委員会概要
- みんなで考えるFD
- 教員の広場
- イベントカレンダー
- リンク集



Kyoto University OpenCourseWare



Audio-Visual Station, Research Resource Archive, Kyoto University
京都大学研究資源アーカイブ 映像ステーション

> HOME

映像ステーションとは

映像ステーション提供番組

アクセス

開館案内

所在地: 〒606-8501
京都市左京区吉田下河津町
京都大学附属財源記念館 1階
開館時間: 10時~16時
入場料: 無料
休館日: 日曜日・月曜日・祝日、
京都大学創立記念日(6月18日)、年
末年始(12月28日-1月4日)

問い合わせ先

映像ステーションへようこそ

京都大学では、過去のフィールド研究や海外学術調査、キャンパスでの教育研究活動において収集・創出された多種多様な研究資源を、「研究資源アーカイブ」に蓄積・保存し、教育・研究資料として再活用を図るとともに、広く社会に公開普及する方向で準備しています。

「映像ステーション」は、その研究資源や、それから生み出された映像コンテンツなどの公開のために開設され、京都大学の映像・音を通じた新たな交流の場となることを目指しています。

新着情報・トピックス

映像コンテンツに館蔵等提供映像が追加されました。(2010年07月30日)
2010年7月30日掲載

研究資源アーカイブ映像ステーションイベント(総合博物館企画展「科学技術Xの扉」)

・ティーチングポートフォリオの共有



京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

京都大学 | 図書館機構

検索

Japanese | English

Kyoto University Research Information Repository >

京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)では、京都大学で日々創造される研究・教育成果(学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など)をWeb上で公開しています。
■収録論文: 7万件以上 ■収録雑誌: 90誌以上 ■論文ダウンロード: 年間80万件以上(2009年)

KURENAI update! **RCF 110**

2010/07/30 特筆は、今注目の「イスラム金融」: 「イスラーム世界経済」 Vol.3 No.2を公開
2010/07/28 iPS細胞研究所の最新論文「形質転換活性を欠損したMycによりプログラムシグナル伝達効率」を公開
2010/07/27 「京都府史料研究」1955年創刊以降の全論文がKURENAIに収録されました。
2010/07/08 『京都府史料研究』Vol.56 No.6を公開
2010/07/07 『lifelong education and libraries. Number 10』を公開
2010/03/05 KURENAI収録論文数が5万件を突破! / 【特別インタビュー】生命科学研究所・榎原寛馬さん(博士後期課程)

・研究資源アーカイブ

・研究論文アーカイブ

4.3 課題: 教員へのサービス向上

① 今までOCWを利用している教員からの要望である学内認証を使って、教員自身が自分でOCWコンテンツを更新できるシステムの開発に取り組んでいる。



② 全学共通科目 約2000科目
3~5分程度のビデオシラバス
作成



高等教育研究開発推進機構

5.1 今後の展望:OCWの2次利用

教員が自分の講義をOCWにアップするだけでなく、
他の教員の講義を研究や教材として使用することが必要である。

本学の教員からの提案

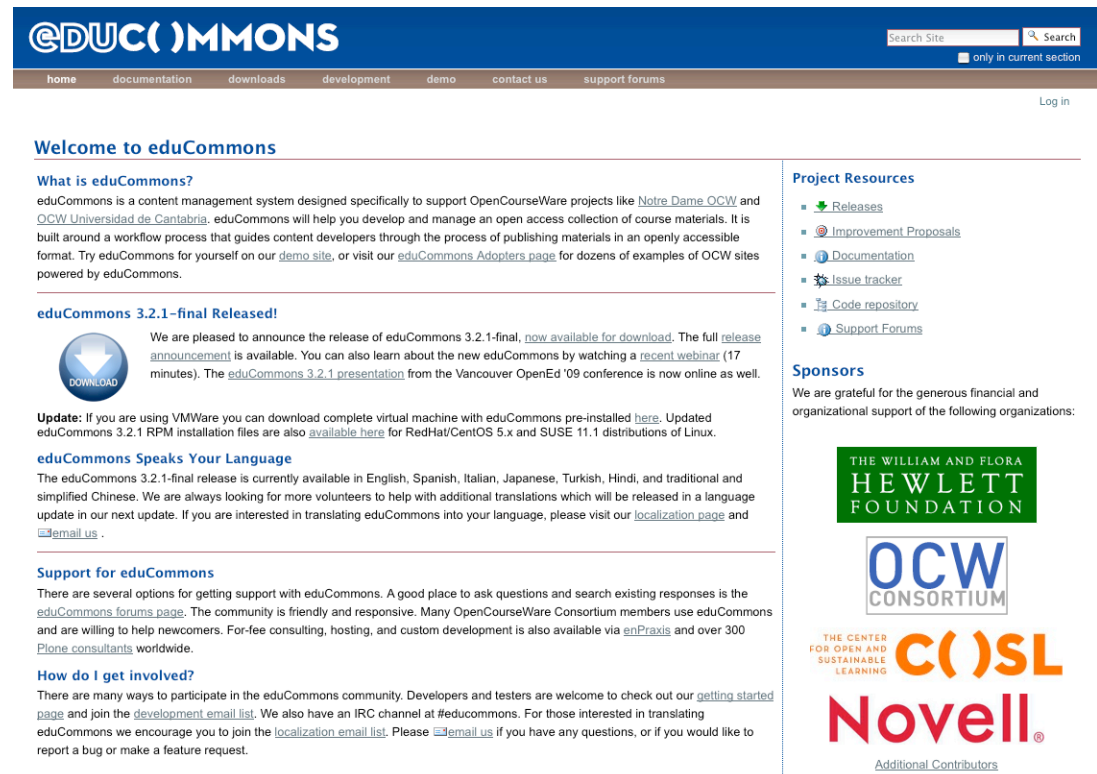
- ・講義映像に字幕を入れる
- ・ネイティブの英語講義映像を英語のリーディングの教材として使いたい



5.2 今後の展望: eduCommonsをより活用する

eduCommonsはオープンソースであるので、関連講義検索機能などの開発が可能である。

教育工学研究として、このようなソフトウェア開発を行い、世界中のユーザーに貢献することを考えている。



The screenshot shows the eduCommons website interface. At the top, there is a navigation bar with the logo and a search bar. Below the navigation bar, there are several sections of content:

- Welcome to eduCommons**: A section titled "What is eduCommons?" explaining that it is a content management system designed to support OpenCourseWare projects. It mentions that it helps developers manage an open access collection of course materials and provides links to documentation, a demo site, and adopters page.
- eduCommons 3.2.1-final Released!**: A section with a "DOWNLOAD" button and text announcing the release of eduCommons 3.2.1-final. It includes a link to the full release announcement and a recent webinar.
- eduCommons Speaks Your Language**: A section stating that the 3.2.1-final release is available in multiple languages (English, Spanish, Italian, Japanese, Turkish, Hindi, and traditional and simplified Chinese). It encourages volunteers to help with translations and provides links to a localization page and an email list.
- Support for eduCommons**: A section explaining that there are several options for getting support, including the forums page, IRC channel, and consulting services.
- How do I get involved?**: A section encouraging developers and testers to participate in the community, providing links to getting started page, development email list, and IRC channel.
- Project Resources**: A sidebar section with links to Releases, Improvement Proposals, Documentation, Issue tracker, Code repository, and Support Forums.
- Sponsors**: A section listing sponsors and their support, including The William and Flora Hewlett Foundation, Ocw Consortium, The Center for Open and Sustainable Learning, and Novell.

5.3 今後の展望:グローバル教育へむけて

OCWというメディアは、

・教員や生徒、人種や制度と言った垣根が取れて、国際的に学びたい人達が学ぶことができる、**学びのためのコミュニケーションツール**になる。

これらを進めていくことにより

社会の中で「オープンエデュケーションがもたらすもの」が、具体的な形になる

<ビジネスでは>

パワーポイントがドッキングした講義ビデオ(日・英版)をipadで、売る事業などが出てきている